

長崎県孤独・孤立対策官民連携プラットフォームキックオフ講座 2025.9.29

子どもの居場所提供について

～「子どもの居場所 まつなぎや」での取組内容と実践報告～



NPO法人schoot 内海博文

1.団体の概要

2.具体的な実践内容と報告

3.孤独・孤立対策としての居場所の重要性

Ⅰ．団体の概要



NPO法人school

2019年、不登校支援団体として設立。フリースクールの運営と親の会。多くの保護者が孤独に悩んでいる。その背景として、課題を抱えた家庭が地域で孤立している状況。

関係性の希薄化＝関係貧困の一般化

（家庭に問題がない場合は気づかないが、家族の誰かに問題やケアが必要になった時に顕在化する。）

ヤングケアラーと不登校問題の背景は共通している。2022年12月より、ヤングケアラー支援事業を開始。

特定非営利活動法人school(スクート)は、**2019年4月**に発足



「おおむら学習センター」の施設を共同で使わせてもらって

学校に行けない小中学生に居場所と学習機会を提供



大村市で最初の「出席扱い」認証校（2021年5月）



2. 具体的な実践内容と報告

支援事業の三つの柱

①相談支援

②周知・啓発

③居場所の運営



①相談支援

相談形態



① 電話／メール／LINE等による相談

相談しやすい手段を使って相談してもらう：選択性

② 「まっなぎや」への来所による相談



対面で話ができる安心感
信頼関係ができた上で相談へと進む（関係性）



①②ともに長崎県ヤングケアラー・ケアラー総合案内窓口業務も含む

②周知・啓発

周知・啓発の方法



①医療・福祉機関、学校などでの研修・講話

→潜在的ヤングケアラーの発見と情報提供



②HP・SNS・チラシ配布等による広報

→地域の人に1人でも多く情報提供者になってもらう

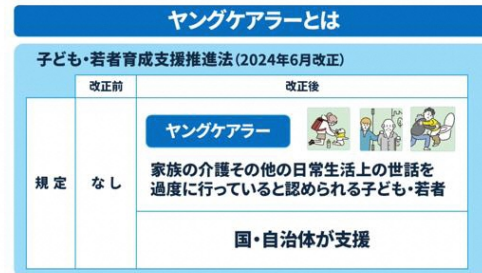
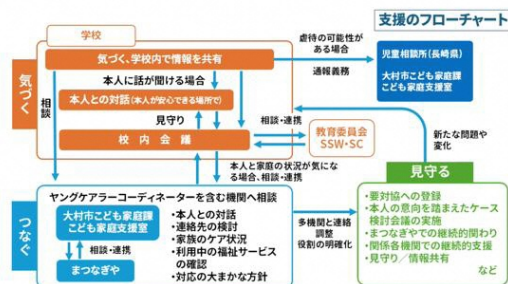
→医療機関向けヤングケアラー支援マニュアルの配布

周知・啓発の方法

大村市教職員向け研修動画（今年度実施）
「ヤングケアラー講座」ステップ1・2・3の配信

市内小中学校の教職員向けに、ヤングケアラーに関する研修動画を作成。ヤングケアラーに関する概要や学校における支援の流れを解説。

youtubeで配信（教職員のみ視聴可）。



研修による周知啓発実施報告

関係機関を中心に、ヤングケアラーの様態や支援方法などに関する研修・講話を合計10回開催。

- | | |
|------------|--|
| 令和6年4月5日 | 大村市内小中学校 心の相談員向け研修
参加人数：18人 場所：大村中央公コミセン会議室 |
| 令和6年4月6日 | 長崎県医療ソーシャルワーカー協会研修部
参加人数：7人 場所：大村中央コミセン会議室 |
| 令和6年6月30日 | 「ヤングケアラーのピアサポートについて考える」
一社「ケアラーワークス」との公開合同学習会
対象：支援員・自治体職員・関心のある一般市民
参加人数：42人 場所：県立図書館ミライon多目的ホール |
| 令和6年9月9日 | 大村市職員向け研修
参加人数：23人 場所：大村市役所会議室 |
| 令和6年9月20日 | 地域住民向け公開講座
参加人数：4人 場所：まつなぎや |
| 令和6年10月23日 | 南島原市地域包括センター介護支援専門員向け研修
参加人数：30人 場所：ZOOM開催 |
| 令和6年10月1日 | 長崎市こども部こども未来課こども支援連絡会研修
参加人数：13人 場所：長崎市役所会議室 |
| 令和6年11月10日 | 大村市明日を作る女性の会 講話
参加人数：9人 場所：プラットおおむら会議室 |
| 令和6年11月14日 | 長崎県立城南高校生徒向け講話
参加人数：403人 場所：県立城南高校 |
| 令和7年1月25日 | 大村市介護支援専門員連絡協議会研修
参加人数：25人 場所：プラットおおむら会議室 |

周知・啓発の方法

市民向け啓発パンフレット

Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

ヤングケアラー ってなんだろう？



かた・ばい・とき
間をつないでいく
まっなぎや

NPO法人school「まっなぎや」

〒856-0805
長崎県大村市竹松本町1000-22
☎：080-4285-0279
✉：matsunagiya@gmail.com
<http://matsunagiya.jimdofree.com>



ヤングケアラーが直面すること

家族の介護やお世話の責任や負担が重くなると、
こども・若者に様々な影響が出る可能性があります。

学校生活への影響

遅刻・早退・欠席、
勉強の時間が取れない、
部活動が出来ないなど



進路への影響

家族のケアを行うため、
希望する進学先や就職先を
断念せざるを得ないなど



友人関係への影響

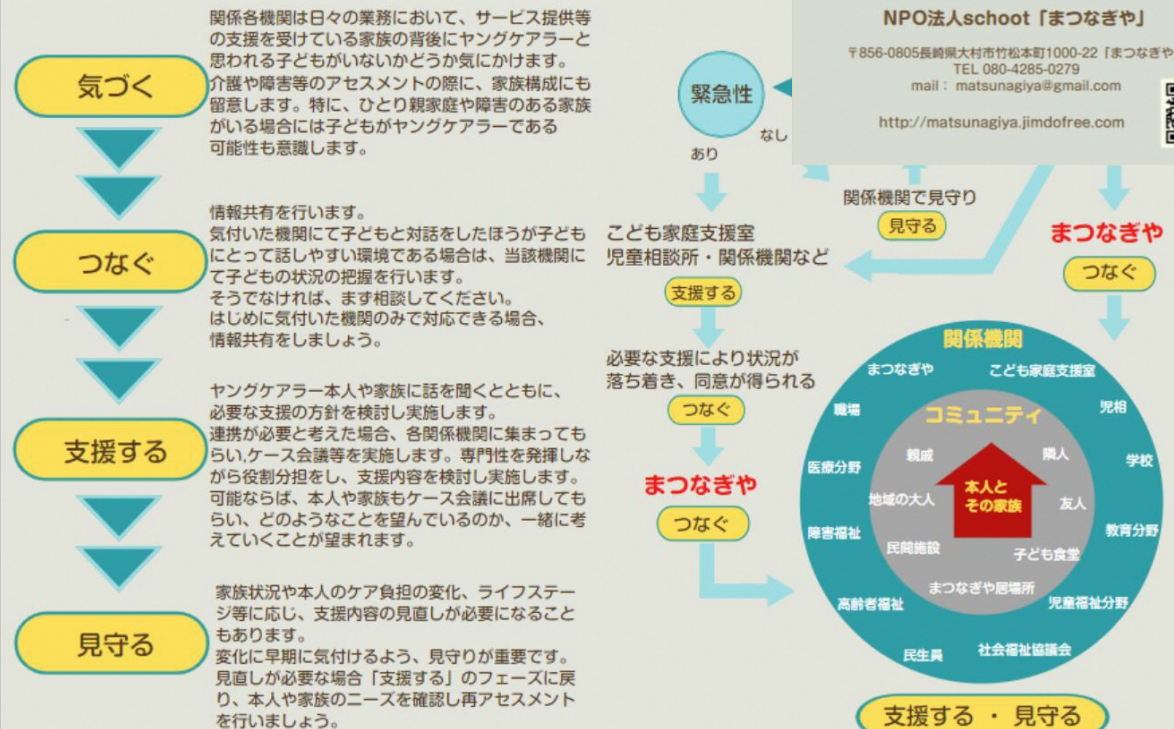
友人と遊ぶ時間がないため
交友関係を築きにくく
孤立しやすいなど



関係機関向け

まっなぎや利用ガイドブック

ヤングケアラー支援のフローチャート



ヤングケアラー支援マニュアル

まつなぎや利用ガイドブック



NPO法人school「まつなぎや」

〒856-0805長崎県大村市竹松本町1000-22「まつなぎや」

TEL 080-4285-0279

mail : matsunagiya@gmail.com

<http://matsunagiya.jimdofree.com>



周知・啓発の方法

校内カフェの取組（城南高校・大村高校定時制）

こちらから高校へ出かけて行って、楽しくリラックスした雰囲気の中で、まつなぎやスタッフが生徒、そして先生方との関係をつくる。一度、顔見知りの状態をつくることで、そこから相談・まつなぎやの利用へつながっていく。



③居場所の運営

子どもの居場所「まつなぎや」

子どもなら誰でも予約なしで
立ち寄れる場所として運営



イベント名	開催日	内容
当事者の会 (ピアサポート)	毎月第1土曜日	<対面> 10:00~12:00 <SNS> 14:00~15:00
子ども食堂	毎月第2土曜日	11:30~14:00
地域交流 ワークショップ	毎月第3土曜日	10:00~15:00

ヤングケアラー支援

子どもまんなかカフェ
「まつなぎや」当事者の会

当事者の方や元ヤングケアラーの方
仲間と自身の体験や情報交換しながら語り合おう

開催日 **11月4日(土)**

時間 オンラインお話し会 Am 11時から12時
リアルお話し会 Pm 15時から17時

※オンラインへの参加はログインのためのコードが必要となりますので前日までにご連絡ください

参加申込みはメールまたはQRコードよりご連絡ください
個別相談は随時受け付けています
メールアドレス: matsunagiya@gmail.com

毎月 第1土曜日 開催



開所日: 火~土 10:00~18:00

今年度開催したイベント詳細 (令和6年～7年)

毎月イベント（ワークショップ）参加者・ボランティア

4月：ストリングアート	子ども20名	ボランティア4名
5月：デコ蒸しパンを作ろう	子ども30名	ボランティア1名
6月：クロスウィービング作り	子ども21名	ボランティア1名
7月：アロマキャンドル作り	子ども24名	ボランティア2名
8月：草木染め体験	子ども14名	ボランティア2名
9月：映画鑑賞『夕焼け』ヤングケアラーの映画	子ども10名	大人6名
10月：ハーバリウム作り	子ども17名	大人付き添い3名
11月：松ぼっくりでリース作り	子ども24名	付き添い3名 ボランティア1名
12月：餅つき	子ども37名	ボランティア11名
1月：みそ玉作り	子ども21名	ボランティア4名
2月：ワイヤーアート	子ども14名	ボランティア6名
3月：デコパージュ	子ども14名	ボランティア3名



「子ども食堂」参加者・ボランティア

4月：子ども14名、	ボランティア・スタッフ5名
5月：子ども14名、	ボランティア・スタッフ4名
6月：子ども17名、	ボランティア・スタッフ5名
7月：子ども37名、	ボランティア・スタッフ5名
8月：子ども24名、	ボランティア・スタッフ4名
9月：子ども35名、	ボランティア・スタッフ4名
10月：子ども33名、	ボランティア・スタッフ6名
11月：子ども18名、	ボランティア・スタッフ6名
12月：子ども33名、	ボランティア・スタッフ6名
1月：子ども25名、	ボランティア・スタッフ4名
2月：子ども22名、	ボランティア・スタッフ4名
3月：子ども16名、	ボランティア・スタッフ9名



1. まつなぎやの利用人数／相談件数

令和6年 ～ 令和7年	延べ利用人数			実利用人数			ヤングケアラーと不登校の子の延べ利用人数 (カッコ内は実利用人数)		相 談	
	合計	子ども	大人	合計	子ども	大人	YC	不登校	YC	その他
4月	183	139	44	98	59	39	10(2)	26(11)	1	4
5月	172	151	21	80	61	19	19(3)	25(10)	1	3
6月	209	182	27	87	60	27	29(5)	25(10)	3	3
7月	296	257	39	100	73	27	37(7)	34(14)	2	7
8月	215	197	18	81	65	16	21(8)	11(7)	1	1
9月	248	207	41	98	65	33	31(7)	29(11)	0	5
10月	247	211	36	103	72	31	33(7)	25(9)	1	5
11月	234	206	28	84	60	24	27(5)	21(8)	1	3
12月	256	222	34	101	72	29	27(7)	28(10)	0	3
1月	192	165	27	81	55	26	19(5)	18(6)	0	2
2月	180	157	23	69	48	21	12(3)	15(6)	1	2
3月	260	225	35	105	78	27	39(9)	35(14)	0	6

令和6年度利用者等概要

子ども延べ利用人数：2319人
(月平均：約193人)

子ども年間利用実人数：260人
(月平均：約64人／月ごとに記録)

ヤングケアラーの利用(3月)：9人

相談件数

YC：11件、その他44件

令和7年度より「まつなぎや」までの交通費助成事業
・公共交通機関利用・タクシー利用(合同タクシー)

利用している子がヤングケアラーと気づいた事例

小学生の事例

友達に誘われて来所。その後単独で利用を重ねるうちにスタッフと関係ができたことで、様々な気持ちを吐露し、その会話から、ヤングケアラーであるということが判明した。

中学生の事例

約1年前からの利用者だったが、昨年夏ごろの会話の中で、進学を諦めて就職すると話す。理由は、家計を支え、介護負担を担うため。祖父が退院後も介護が必要で、夜勤の母や高齢の祖母とともに対応している。

高校生の事例

研修先の高校教諭より「食事を摂れていないことが多く心配している」という相談から紹介に至る。まつなぎやの利用の際には昼食を提供するなど継続的な関わる。その後、ひとり親世帯で、小学生のころから精神的に不安定な母親の代わりに家事全般を行ってきた、ということが判明。



大村市・子ども未来部

関係機関

情報やりとり・連携



地域

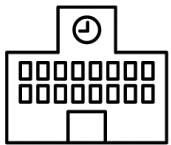
認知・理解



発見



学校



研修



情報提供
相談

講話

相談

まっなぎや



日常会話・日々の関わり

関係構築・背景理解
発見



イベント
情報発信



関係づくり

情報提供
相談

認知・理解



発見



3.孤独・孤立対策としての居場所の重要性

「居場所」が必要な理由

①ヤングケアラーの支援は「伴走支援」

問題が重篤化する前に関係ができる

長期的に関わり続けることで、本人のニーズやタイミング、状況に合った支援がおこなえる

関わることでそれが支援であること

②地域（の大人）で子どもを見守り応援する関係の構築

家庭が個別に問題を抱えてしまう現代の社会構造それ自体が背景にある。

かつてあった地域における人間関係の結び直しが必要。

ヤングケアラー問題は、家庭と家庭のつながりや地域とのつながりが切断されてしまっていること（孤立）の一つの現れ

ここまでの実践における重要な気づき

見えている「ケア」は氷山の一角

- ・ヤングケアラー＝「子どもが家族のケアをする」という事実だけではない
- ・背景には家庭の課題・困難が隠れている

支援の本質

- ・ケアの事実やケアラー支援を入口に、家庭の背景問題に気づく
- ・「まるっと家族支援」へとつなげることで孤独・孤立を防ぐ

家族全体を支える包括的な取組が必須